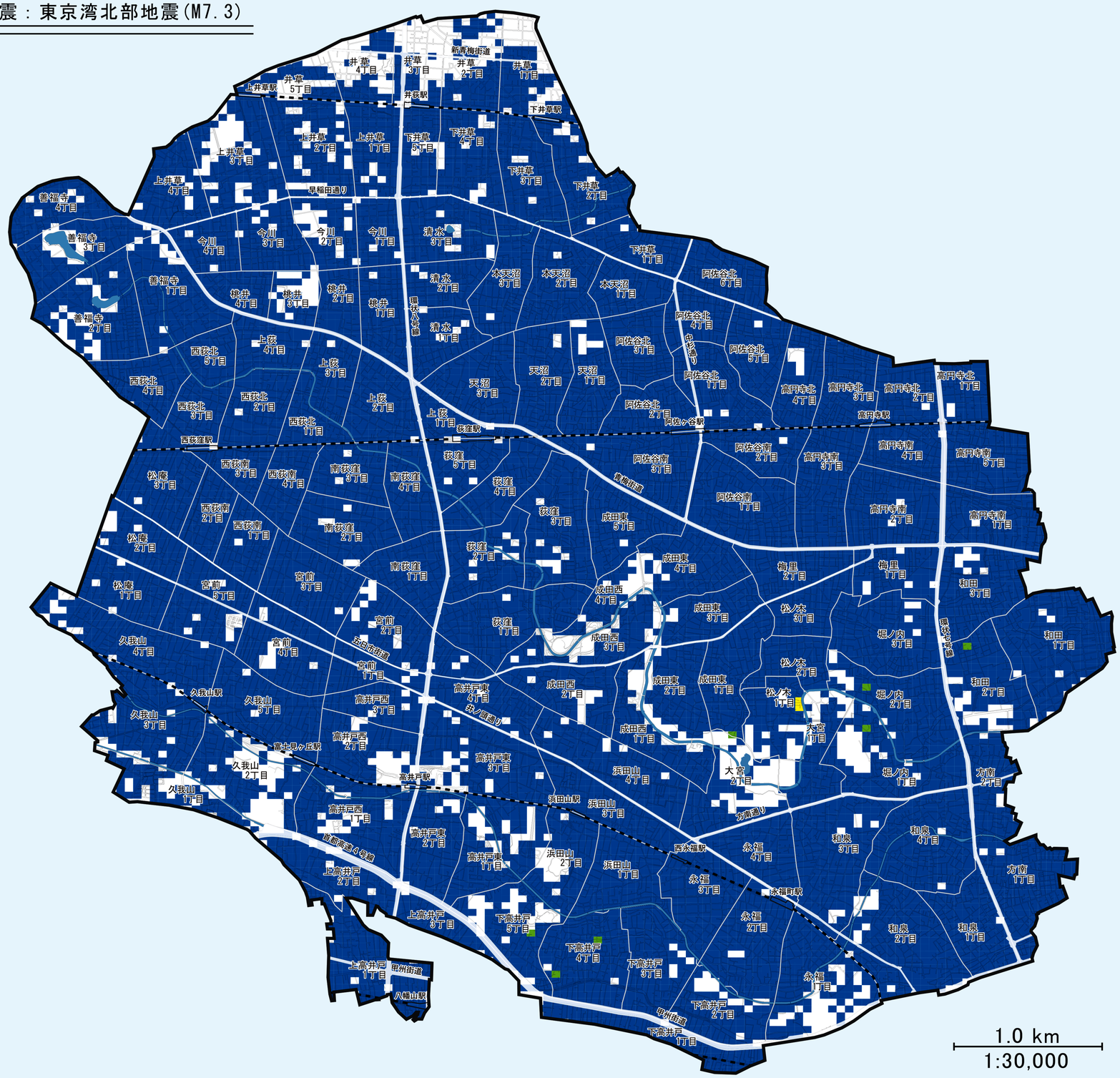
減災対策(※1)後の全壊予測図

想定地震：東京湾北部地震(M7.3)

地震被害シミュレーションは、地震の規模や震源地、発生時刻や風速など、一定の条件を設定して行った想定の一つです。
実際の首都直下地震の被害は、今回の想定結果と比べて小さい場合もあれば、大きい場合もあります。この結果だけにとらわれず、大規模な地震に備えていくことが大切です。

全壊とは、補修して住み続けることが困難な状態をいいます。



減災効果

大きな揺れが発生しても…

全壊棟数 ——— 447 棟

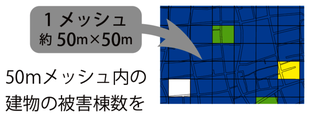
82% 減少

減災対策の結果、現況(※2)における被害想定数（2,523 棟）と比較すると被害棟数は約 2,000 棟減少し被害の大幅な軽減が見込まれます。

凡例

50mメッシュ内全壊棟数

- 2-4
- 0-1未満
- 1-2 未満
- 0



50mメッシュ内の建物の被害棟数を表しています。50mメッシュの中には建物が建て込んでいる所や空地が比較的多い所など場所によってまちまちですが、平均すると概ね２０～３０棟の建物があります。また、０～１棟未満というのは、確率として１つのメッシュ内の被害棟数が１棟に満たない状態を表しています。１棟に満たないからといって、被害が生じないということではありませんのでご注意ください。

（※1）減災対策の内容：耐震化率 96%、不燃化特区の不燃領域率 70%、狭あい道路拡幅整備 100%、都市計画道路第 4 次優先整備路線及び「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に掲げる優先整備路線の整備完了。
（※2）現況：平成 27 年度末現在の区内建物状況や道路整備状況を反映。なお、平成 27 年度末現在の区内全建物棟数は 122,904 棟。

2017 年 9 月 1 日公表版